●シナリオトレーラー

この脚を切り落としたら、
あなたは笑ってくれたのでしょうか。
この喉を切り裂いたら、
あなたは抱いてくれたのでしょうか。
この心臓を献げたら、
あなたは永遠を共にしてくれたのでしょうか。

降り注ぐ雨の音は、
戻る場所をなくした獣の慟哭。

名もなき想いの残滓が憎しみの海に沈むとき、
悔恨の涙は赤色に染まる。

人鬼血盟RPGブラッドパス
泡沫

――血の軛が、運命ならばよかったのに。

●シナリオハンドアウト

・人間PC用ハンドアウト

所属組織：SID

キミの知人に、ローサという半鬼の少女がいる。彼女は調査員としてSIDに協力しており、キミもよく彼女と接触し、話をする仲であった。内気で大人しい性格であり、大きな問題を起こすこともなかったローサが、突然連絡を絶った。そして、その姿が、殺人事件の現場付近で目撃されたという。彼女は事件と、どう関係しているのだろうか。

[シナリオテーマ：ローサと事件の関係を探る]

・吸血鬼PC用ハンドアウト

所属組織：SID

SIDの監督官に、央宮貴理子という女性がいる。聡明で優しい彼女は、人間からも吸血鬼からも慕われている人物であり、キミとも親しかった。そんな彼女が、何者かによって殺害された。さらに、その知人までもが次々と襲われているのだという。犯人は業血鬼だと推察されているが、いったい何が目的なのだろうか。

[シナリオテーマ：央宮殺害の犯人を追う]

▼サンプルキャラクター

クイックスタートでキャラクターを作成する場合、次の「サンプルキャラクター」を推奨します。プレイヤーが3人の場合は「復讐の剣士」を除外し、プレイヤーが2人の場合は「復讐の剣士」と「日向の半鬼」の両方を除外してください。

「特別監督官」（人間・『BLP』P126）
「華麗なる血闘者」（吸血鬼・『BLP』P126）
「復讐の剣士」（人間・『BLP』P128）
「日向の半鬼」（吸血鬼・『BLP』P128）

●シナリオスペック

・ステージセット：東京UTM
・想定プレイヤー人数：2～4人
・想定練度：1
・想定プレイ時間：4～5時間（PC作成時間を除く）

●GMへの注意！

本シナリオは『TRPGフェス・オンライン ゼロ』にて使用したシナリオです。あらかじめ、ご了承ください。

また、本シナリオでは複雑な人間関係が背景にあります。**必ず一通りシナリオに目を通して事件の内容を理解してから、セッションを始めましょう。**

ストーリー

SIDの監督官である、央宮貴利子が殺害されました。さらに、業血鬼が央宮の知人を相次いで襲撃。事態を重く見たSIDはPCたちに業血鬼の捜索と速やかな抹消を命じます。

一連の事件の犯人は、央宮の知人である半鬼の吸血鬼ローサです。央宮の窮地を救ったことを契機として、ローサは央宮を慕うようになります。しかし、央宮は別の吸血鬼と血契を交わすことが決まり、ローサは嫉妬と自己嫌悪の間で苦しみます。そして、思い詰めたローサは央宮の血を吸い殺し、自らも死のうとします。しかし、央宮にとってローサは（恋愛感情はなくとも）「大切な人」に変わりなく、ローサは業血鬼となってしまいます。

ローサの目的は、央宮について知る者を殺して血を奪い、彼女を「生き返らせる」ことです（可能だと思い込んでいるだけで、実現性は限りなく低いものです）。ローサが業血鬼化したということは、央宮はローサのことを大事に思っていたことを意味します。ローサは央宮にもう一度会いたいと願っていますが、それはこのまま血塗られた道を進んでも叶わぬことなのです。

PCたちが事件の犯人を突き止め、抹消すれば、このシナリオは終了となります。

導入フェイズ

［導入フェイズ］（『BLB』P216）では、［血盟の日常］と［事件への介入］の前に、［人間のPC］と［吸血鬼のPC］それぞれが［マスターシーン］を行ないます。［人間］や［吸血鬼］が複数いる場合、一緒に［マスターシーン］に登場します。

●マスターシーン1（人間PC）

［人間のPC］のみ登場。［吸血鬼のPC］は登場不可。PCがローサと話をする、過去の回想場面です。時制は、事件発生の約1ヶ月前を想定しています。プレイヤーと相談して調整する場合は2ヶ月前から2週間ほど前の間にするとよいでしょう。

ローサはPCたちに「好きな人」についての相談をします。ローサが想いを寄せているのは央宮貴理子ですが、この場面ではそれを明言しません。もしPCたちに尋ねられても「そのうち話しますね」と言って誤魔化します。

▼場面描写

キミは、東京都内にあるレストランの裏口にやってきている。ここで働くローサという半鬼の吸血鬼はSIDの協力者であり、月に何度か接触して情報や噂話を仕入れることも、キミの仕事のひとつだった。その日は、特にめぼしい情報もなく、気がつけば雑談になっていた。

▼セリフ：ローサ

「あの、［PC名］さん。ちょっとお尋ねしたいことがあるんです」

「好きな人ができたら……アプローチは積極的にした方がいいんでしょうか？」

（その通り、と答えた）「や、やっぱり、そうなんでしょうか！」

（慎重にいけ、と答えた）「そうですね、迷惑をかけたらいけないですもんね」

（わからない、と答えた）「すみません、変なことを聞いて」

「その人は、誰にでも優しくて、格好よくて……それに、人間なんです。吸血鬼のことは、知っている人なんですけど……」

「私みたいに、取り柄もない半端者じゃ、釣り合わないなって思うし、迷惑をかけちゃうんじゃないかと思うと、自分の気持ちも打ち明けられなくて……」

「その人が幸せでいてくれたらいいって、自分に言い聞かせているんです。それでも、ずっと……一緒に居たいって思ってしまうんです」

（会話が一段落したら）「あっ、すみません。私、用事があるので、そろそろ失礼しますね！」

（用事について話した）「その……さっきの話の人と会う約束があって……し、失礼します！」

●マスターシーン2（吸血鬼PC）

［吸血鬼のPC］のみ登場。［人間のPC］は登場不可。PCが央宮貴理子と話をする、過去の回想場面です。時制は、事件発生の約1ヶ月前を想定しています。プレイヤーと相談して調整する場合は2ヶ月前から2週間ほど前の間にするとよいでしょう。

央宮貴理子は、PCに対して「血盟のパートナー」をどう思うのか尋ねます。PCたちが質問の意図について尋ねた場合、央宮は「血盟を結ぶことが決まった」と言いますが、相手については話しません。

▼場面描写

キミは警察庁の地下にあるSID本部にいる。任務や報告も一通り終わり、休憩コーナーで一息ついていると、見覚えのある、すらりとした長身の女性が声をかけてきた。

▼セリフ：央宮貴理子

「やぁ、［PC名］くん。お疲れ様」

「休憩中なら、私もご一緒させてもおうかな。キミに、ちょっと尋ねたいこともあるしね」

「キミは……キミのパートナーの［人間PC名］さんのことを、どう思っているんだい？」

（答えた）「へぇ、なるほど。キミたちはそういう関係なのか。あらためて当人の口から聞くと、面白いものだね」

（誤魔化した）「ふふ、キミたちだけの秘密、ということかな？だったら、無理には聞かないよ」

「実は、こんど私も血盟を組むことになってね……〝死がふたりを別つまで〟の関係は、どう特別なのかを知りたかったんだ」

「血盟は親友や恋人よりも特別な〝濃い〟関係だという者もいるからね」

「これまで知人でもなかった相手と長い時間を共に過ごすことになるんだ。生活や心情が変化することもあるのかな……と思ったのさ」

「何にせよ、パートナーと一緒に大切な人たちを守れるようになるんだ。それは、とても嬉しく思っているよ」

「貴重な時間をありがとう。よかったら、血盟の先輩として、また相談にのってくれないかな？」

◆場面終了チェック

・央宮の質問にPCが答えた。

・央宮が自身の事情について話した。

◆場面終了チェック

・ローサの質問にPCが返事をした。

・ローサが自分の想いについて話した。

・ローサがPCたちと別れた。

・央宮とPCが別れた。

●血盟の日常

［血盟の日常］（『BLP』P216）では、血盟ごとに日常の演出を行ないます。PCたちに演出にキリがついたら、GMは場面の締めとして、PCたちがSIDの日比屋響子にに呼び出しを受ける演出を入れましょう。

●事件への介入

［事件への介入］は日比屋響子から殺人事件の調査を命じられる場面となります。複数の血盟がセッションに参加している（プレイヤーが4人の）場合、［事件への介入］は共通となります。

なお、PCから質問がある場合、次の内容を参考に答えてください。

・央宮は血盟を結んでいたが、血盟相手とは別行動中に殺害された。
・央宮は首の咬み跡のみ。殺人事件の被害者は頭部や胸部を巨大な牙で食いちぎられたような傷痕、という違いがある。そのため、ふたつの事件の関連性はまだ不明である。
・央宮のパートナーだった青年は、現在SIDの施設で保護されており、事情聴取を受けている。面会までは少し時間がかかる（マスターシーンが用意されている）。

▼場面描写

霞が関の警察庁地下にある、SID本部。その課長室へ、キミたちは呼び出されていた。日比屋響子は、いつになく険しい表情で口を開く。

▼セリフ：日比屋響子

「昨晩、SIDの央宮貴理子監督官が死亡したわ」

「詳しい死因は検死結果待ちだけど、大量の血を吸われたことが死亡原因であり、他殺であることは確かね」

「そして央宮監督官だけでなく、都内で連続した殺人事件も発生しているの。それも、犠牲者は全員が央宮監督官の知人や友人よ」「連続殺人では現場付近で血戒が発生していることから、犯人は業血鬼で間違いないわ」

（人間PCを見て）「連続殺人の近辺では、SIDの協力者である吸血鬼のローサが目撃されているわ。事件と何らかの関係があると考えるのが妥当ね」

「あなたたちには、央宮監督官の殺人と連続殺人事件の関連の調査。および、連続殺人事件の犯人の〝抹消〟を命じるわ」

◆場面終了チェック

・日比屋響子が事件の概要を伝え、捜査を命じた。
・PCたちが捜査へ向かう演出を行なった。

調査フェイズ

［調査フェイズ］（『BLP』P218）ではPCたちが事件を調査してゆきます。

●マスターシーン3

PCは全員登場。［情報開示］で［情報1］が開示された直後に発生します。場面の前半では央宮の血盟であったルカという青年に話を聞きます。ルカの外見や簡単な設定は本シナリオのP#に掲載されています。また、PCがルカに質問を行なった場合は、「補足：ルカの知っていること」を参考に答えてください。PCとルカの話が一段落すると、場面は業血鬼となったローサと対面する後半に入ります。場面描写2とセリフ2を参考に演出を進めましょう。

なお、ひとり以上のPCが場面の最初から登場していれば、他のPCは場面の途中から（たとえば後半や、ローサが去った後など）登場しても構いません。

▼場面描写1

キミたちは東京都内にある、SIDが所有する施設のひとつにやってきた。表向きは中流層向けのマンションだが、その実体は一時保護という名の監禁施設である。その一室に、央宮貴理子の血盟相手であったルカという青年がいた。

▼セリフ：ルカ

「こんにちは。あなたたちが、事件の捜査をしている方々ですね」

「なんでも聞いてください。……といっても、お役に立てる情報があるかどうかは分かりませんが……」

▼場面描写2

突如、部屋に備えられた冷暖房機がゴボゴボと異音を発し、赤い液体が吹き出した。フローリングの継ぎ目からも同じく水が溢れ出してくる。扉も窓も開かず、瞬く間に水位は腰の上まで上がってきた。

そして、その水面から、ひとりの女性……ローサがゆっくり姿を現わした。彼女がルカに目を向けると、周囲の空気が一気に重くなったような感覚に襲われた。血戒の展開。それは、ローサが業血鬼であることの証だった。

▼セリフ：業血鬼ローサ

「見つけた……あなたが、ルカさんね」

（人間PCが話しかけた）「［PC名］さん……その人を、渡してください」

（目的を尋ねた）「私、貴利子さんを生き返らせるんです。だから、貴理子さんを知っている人の記憶を全部食べているんですよ」

（なぜ央宮を殺したのか尋ねた）「……そんなこと、あなたたちには関係ありません。話しても、きっと理解できませんよ」
「その人（ルカ）は立派な貴種の吸血鬼で、ブラッドパスの適性もあって、性格もよくて、男の人で……私にはないものばかり、持っていて……」（ぽろぽろと大粒の涙をこぼす）
「私、業血鬼になってから、貴理子さんのこと、少しずつ思い出せなくなってきているんです。言いたいことが、あったはずなのに……だから、何人殺してでも、貴理子さんに会いたいんです」
（PCが戦う姿勢を見せた）「……ここはSIDの施設ですし、増援がきたら厄介ですね。ここは退きましょうか」
「［人間PC名］さん、私の邪魔、しないでくださいね……」（水の中に消える）

▼セリフ：ルカ

（血戒が解けると意識を取り戻す）「……いまのは、ローサさんですか？」
「貴理子さんは、私と血盟になることを喜んでくださっていました。ローサさんに、一番に報告したいと言っていたのに……どうして、こんなことに……」

◆場面終了チェック

・ルカと接触して話を聞いた。
・ローサが自分の目的を明かした。
・ローサが撤退した。
・PCが次の調査に出かける演出を行なった。

◆補足：ルカの知っていること

ルカが知っていることや、話すことができる内容は次の通りです。マスターシーン3の前半でPCがルカに質問を行なった場合、これらの情報をもとに受け答えを行なうとよいでしょう。

・ルカと央宮が最初に会ったのは1か月ほど前。血契を交わしてパートナーになったのは2日前。
事件当時、ルカは央宮が「大事な友人とふたりきりで会いたい」と言っていたので、別行動していた。また、彼自身は「自分が近くにいれば……」と責任を感じている。
・ルカに残された央宮の痕印は「掌（親愛）／月（安心感）」。
・央宮はルカに「ローサという親友がいる」ことを話していたほか、「自分が吸血鬼と戦って海に落ちたとき、現場に居合わせたローサが、命の危険を顧みずに救ってくれた。とても立派で優しい人だ」とふたりが知り合った切っ掛けを話していた。
・ルカは、央宮貴理子のことは信頼できる人であり、「きっと、いい相棒になれるだろう」だと思っていた。央宮貴理子に現われていた痕印は「手の甲（尊敬）／花（憧憬）」。

◆補足：ローサの背景

ローサが央宮貴理子を殺害するに至る背景情報です。これらは、PCが知らなくてもシナリオを進行することが可能です。しかし、PCがローサについて興味を持ち、その背景や内面を知りたいと望んだ場合は、次の背景情報をPCに伝えましょう。なお、一気に全文を読み上げるのではなく、［調査］の結果として少しずつ伝える方が、プレイヤーも理解しやすくなります。

・ローサは母親が吸血鬼と不倫をした末に生まれた子どもであり、幼い頃から罵倒され虐待を受けて育ったため、自己肯定感が非常に低い。
・央宮を助けた際、息を吹き返した彼女に言われた「キミも生きていてくれて、嬉しいよ。ありがとう」という言葉は、ローサの心を奪うには十分だった。それは、依存に近い、幼く身勝手な恋だったのかもしれない。だが、ローサにとっては生まれて初めての「この人がほしい」という欲望だったのだ。
・もしも、ローサが自分の感情が態度に出てしまう人物なら、央宮貴理子も想いに気づき、ふたりの関係には何らかの変化があっただろう。だが、皮肉なことに、彼女は幼少期の経験から、感情を隠し、内側に溜め込むことが上手かった。
・また、ローサにはブラッドパスの適性がなかった。それが却って、血盟に対する特別視を育んでいたのだ。「死がふたりを別つまで、共に死線をくぐり抜けるパートナー」が央宮にできてしまったことに、ローサの心は耐えきれなかったのである。

情報項目

このシナリオの情報は次のふたつです。

●情報項目名1：「ふたつの殺人事件について」

▼開示値：PC人数＋1

▼内容：央宮貴理子が殺害される直前にローサと待ち合わせていたこと、被害者に残された歯形が完全に一致したことから、ローサが央宮殺害の犯人であることが確定した。さらに、連続殺人事件の現場からローサが血奏法を用いた痕跡も発見され、両事件の犯人がローサであることは確定した。
すでに東京に住む央宮の親しい知人はすべて殺害されている。次に狙われるとすれば、やはり央宮のパートナーだったルカとい

う青年だろう。彼は現在、都内になるSIDの施設で〝保護〟されている。急ぎ、面会に行く必要がありそうだ。

●情報項目名2：「業血鬼ローサについて」

▼開示値：PC人数×3

▼内容：ローサの知人から集めた情報によれば、央宮はローサを親友だと言っていた。だが、ローサが央宮に対して抱く気持ちは友情ではなく恋心であり、彼女は常に悩んでいたという。そして央宮が他の吸血鬼と血契を結ぶことを知り大きなショックを受けたローサは、悩んだ末に央宮を呼び出し、無理心中を図ったようだ。だが、央宮がローサのことを大事に思っていたことは確かであり、その血を吸ったローサは業血鬼となり、連続殺人に及んだ。

集めた目撃証言から、ローサの居場所が港区にある埠頭の一角であることが判明した。たとえ業血鬼の力を持ってしても、死んだ者は蘇らない。ローサを〝抹消〟して、これ以上の被害の拡大を防がなければならない。

▼セリフ：ローサ

（PCたちが気付いた）「あぁ、こんなところにまで……私を殺しに来たんですね」

「ここ、私と貴理子さんが初めて会った場所なんです。悪いことをしている吸血鬼を貴理子さんが捕まえるために、私の案内で一緒に来て……貴理子さんが、海に落ちてしまったんです」

「私、泳げないんですよ？　だけど、助けなきゃって、必死になって飛び込んで……。気がついたら、あの人のことを好きになってしまっていたんです」

「貴理子さんが仕事で、他の吸血鬼と血盟になるって聞いたとき……目の前が真っ暗になった気分でした」

「〝死がふたりを別つまで〟一緒にいられる人のことが羨ましかった。あの人が、私以外に血を吸われることを想像しただけで、涙が溢れてくるんです」

「自分の心を押し殺して、おめでとうって言えればよかった。関係が壊れることを覚悟して、想いを告げればよかった。でも……私は弱いから、ふたりとも消えてしまえば幸せだと思ったんです」

「私だけ業血鬼になって生き残っちゃいました。時間が経てば経つほど、私の中に憎いという感情が増えていくんです。たしかに私は何を憎んでいたけど……最初のことは、もう思い出せません」

「もういちど会えれば、きっと、全部思い出せるから……だから、あなたたちの血と肉と、貴利子さんの思い出を、私にください」（全身が鱗に覆われた巨大な異形となる）

（やられた）「あぁ、そうか……私、貴理子さんに……謝りたかったんだ……」（異形化が解ける）

「出会ってしまって、ごめんなさい……好きになって、ごめんなさい」

◆最後の演出について

業血鬼であるローサは、死亡すると体が灰となって散ってゆきます。もし、PCたちとの会話で彼女の心が救われたとGMが判断したら「彼女の体は空へ散っていった」と演出してください。もし、彼女の心は最後まで後悔に満ちていたと判断したら「海へ沈んでいった」と演出してください。

◆場面終了チェック

・「血戦」が終了した。

終幕フェイズ

［終幕フェイズ］（『BLP』P223）では、物語の終幕や後日譚を演出します。具体的な演出はプレイヤー同士で相談して決めてもらいましょう。［日常表・場所］と［日常表・内容］を参照しても構いません。

最終血戦フェイズ

最終血戦フェイズ］では、［吸血］と［血戦］を行ないます。

●吸血

『BLP』P223のルールに従い、血盟ごとに吸血の演出と手札の入れ替えを行なってください。

●血戦

PCがローサと決着をつける場面です。まずローサとPCたちが会話する演出を行ない、キリがついたら［血戦］を開始します。エネミーはローサ×1。**【終了条件】はローサの「戦闘不能」です。**

▼場面描写

キミたちは、東京湾に面した、ひとけのない埠頭へやってきた。コンクリートで固められた情緒のない海辺。ここが、ローサと央宮が出会った場所だという。

埠頭の一角に、立って海を見ているローサの姿があった。その隣で赤い水が人の姿をとり、すぐに形を保てず消えてしまう。何度もそれを繰り返しているのだろう。ローサの周囲には二面の赤い水が溜まっていた。

ローサ

分類：ボス、業血鬼　　**根源：**憎悪
脅威度：3　　**タイプ：**バランス
【生命力】：[ＰＣ人数×2]＋1　　**【先制値】：**17
〈特技〉：

〈強者の一閃〉(きょうしゃのいっせん)
タイミング：攻撃　**対象：**単体　　**条件：**なし
対象に [山札1枚＋5] 点のダメージを与える。[情報2] が開示されていない場合、この〈特技〉で与えるダメージにさらに＋3する。

〈業の鎧〉(ごうのよろい)
タイミング：開始　**対象：**自身　　**条件：**血戦1回
山札からカードを [ＰＣ人数] 引き、[スタック] する。

〈根源技・憎悪〉(こんげんぎ・ぞうお)
タイミング：準備　**対象：**自身　　**条件：**なし
山札からカードを1枚出す。そのカードが赤の場合、あなたは [手番] 終了まで〈特技〉で与えるダメージに＋5する。

〈憎しみの棘〉(にくしみのとげ)
タイミング：解説参照　**対象：**単体　**条件：**血戦1回
あなたの [生命カード] が破壊された際に使用する。あなたの [生命カード] を破壊したキャラクターに [山札1枚＋5] 点のダメージを与える。

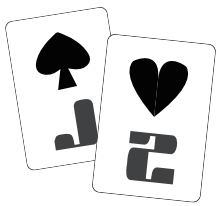
〈虚憎の鏡界〉(きょぞうのきょうかい)
タイミング：解説参照　**対象：**自身　**条件：**血戦1回
あなたの【生命力】が1点の場合のみ使用可能。いつでも使用できる。あなたは即座に [タイミング：攻撃] の〈特技〉を使用する。

行動指針：[開始] で [業の鎧] を使用し、[ＰＣ人数] 枚のカードを [スタック] する。[手番] では [準備] のタイミングで〈根源技:憎悪〉を使用し、[攻撃] で〈強者の一閃〉を使用する。ＰＣの攻撃によって [生命カード] が破壊されたら〈憎しみの棘〉を使用し、【生命力】が1点 ([生命カード] が1枚) になったら、〈虚憎の鏡界〉を使用し、〈強者の一閃〉で攻撃を行なう。

解説：元はＳＩＤに協力していた半鬼。年齢は20歳。央宮貴理子監督官に恋心を抱いており、無理心中を図るも、業血鬼化。「央宮貴理子を生き返らせたい」という妄執に突き動かされ、連続殺人に及ぶ。たとえ関係者全員の血を吸っても、せいぜい「央宮に似た反応を返す水人形」ができる程度だが、ローサ本人はそのことを理解していない (説明しても受け入れない)。なおローサ自身には理解できていないが、根源の“憎悪”の対象は愛する人の幸せを祝福できなかった自分自身。人魚姫は、王子を殺しても幸せにはなれなかったのだ。

央宮 貴理子（おうみや きりこ）

解説：ＳＩＤの監督官。年齢は27歳。容姿端麗で快活な性格、優秀で人当たりもよく、人間からも吸血鬼からも慕われる人物。男女問わず非常にモテるが、本人は無自覚。とても正義感が強く、ブラッドパスを結び、業血鬼から大切な人たち (ローサ) を守ることを望んでいた。
なお、睡眠薬によって眠らされた後に血を吸われたため、最後までローサの心を知ることはなかった。

ルカ

解説：ＳＩＤに“保護”されている貴種の吸血鬼。年齢は約300歳 (外見は20代前半) の男性。ロシアの片隅でひっそり暮らしていたが、血族を皆殺しにした業血鬼を追って日本へ渡ってきた。他者への敬意を大切にする穏やかな紳士。
ただ、残念ながら恋愛の機微には疎く、央宮から聞いた話からローサの想いを見抜くことはできていなかった。事件の真相を知った後、ルカはそのことを長く悔やむことになる。